

A 自然の保全

環境目標

(短期目標)

市域の40%以上に自然や緑地(緑地・公園・農地・水辺)を残します。(注1)

(長期目標)

市の全ての事業・活動は、環境保全と調和して行います。

ホタル、メダカ等の身近な生き物(注2)の生息を維持していきます。

(注1)平成17年の土地利用の見込みは、農地525ha、森林110ha、水辺182ha、都市公園等100haで、合計917ha、市域面積の40%。

(豊明市第3次総合計画による)

(注2)保全目標とする生き物の種類は、調査等を行い指標生物を選定し決めていきます。

現 状

短期目標の検証

土地利用の状況は、農地576ha、森林115ha、水辺182ha、都市公園等45haで、合計918ha/2,318ha、市域面積の約40%である。

(とよあけの統計 2006年版等を参照)

長期目標の検証

大狭間湿地帯にて、ハッチョウトンボの生息地の保全活動

二村山緑地を残すために、市で購入し保全

開発行為にて緑地を残すために指導要綱を策定

評価：一部、評価できる施策も実行されたが、多くは従来の行政施策が実行されているにすぎず、基本計画に基づく方向が打ち出されたものではない。行政内での方針の周知が不十分であったこともその原因である。緑地の面積は目標とは反対に減少しているが、主として農地の減少によるもので、評価は困難である。目標達成度 = 30%

今後の対策・施策：

平成19年度の市史総集編に「豊明の希少動物」を掲載する。

方針について庁舎内で周知を図る。

農地面積を目標値としない。

B 風景の保全

環境目標

(長期目標)

次世代に伝えていきたい風景等(注1)を維持していきます。

(注1)保全目標とする対象は、調査等により、大切にしたい景色、自然景観、史跡・文化財等、伝統文化などを選定し決めていきます。

現 状

史跡(桶狭間古戦場伝説地・戦人塚・阿野一里塚)について樹木剪定等による維持管理を行った。

大狭間湿地の保全、生育する動植物の調査を行った。

ナガバノイシモチソウ自生地への給水、除草、遺伝子解析を行った。

埋蔵文化財(古窯等)の所在把握、開発業者への指導を行った。

指定民俗文化財等の保存会をはじめ、伝承者に補助金を交付した。

(例)大脇の梯子獅子・上高根の棒の手・諏訪社虫送り

評価：自然景観や身近な景色の保全，史跡・文化財・天然記念物・希少生物の保護および風土・歴史・文化の継承の面においては，評価できる施策が実行された。その他の目標については，従来の業務の枠を出るものではなく，新たな施策が求められる。目標達成度 = 40%

今後の対策・施策：

鎌倉街道は一部しか残存していないが，保全対象とする。

農地の保全に新たな施策を検討する。

C 自然とのふれあいの確保

環境目標

(長期目標)

全ての地域に自然とふれあえる場を確保します。

現 状

ビオトープの建設・学校花壇コンクールへの参加を行った。

市内小学校の環境学習への協力、出前講座による環境学習を実施した。

豊根の野外教育センターの維持管理を行った。

環境団体への水質調査キッドの貸与を行った。

市民が農業とふれあう機会の確保するため市民菜園等を開設した。

評価：ある程度実行されたのは、市民菜園の提供であるが、独自性のあるものではない。
その他は従来の施策を継承したものにすぎない。目標達成度 = 20%

D ため池等の水辺の保全・活用

環境目標

(短期目標)

市内のため池をできるだけ保全します。保全するため池は、調査等を行いその結果などをもとに決めていきます。

(長期目標)

それぞれのため池は、その個性や地域特性に応じた保全活用を図っていきます。市内の水辺における自然な水際の残存距離を現況より延長します。

現 状

短期目標の検証

市内のため池は、治水機能と利水機能の2つの機能があり、それぞれに対応するためにため池台帳が整理管理されている。

愛知県作成のため池台帳... 44池 (H5年~)

豊明市土木課作成のため池台帳... 46池 (毎年加除実施)

豊明市環境課作成のため池台帳... 37池調査実施 (H13年)

豊明ウオッチャーの会作成のため池台帳 (環境課保管) ... 55池 (H15年)

長期目標の検証

勅使池の自然保護と施設整備を考える会で検討実施し、施工中である。

ため池 (三崎池・大狭間池) 改修にあたっては、近隣住民の意見を取り入れた。

水質調査 (春・秋) を8ため池にて実施している。

総合治水対策施設としての整備計画を立案して、2割が完成している。

たん水防除事業等による排水機場の整備 (大脇・阿野・大久伝) をした。

親水護岸の設置等 (前後駅南：皆瀬川) を行った。

評価：ため池や河川の整備にあたって、行政内の連携が十分に行われていない。計画策定にあたっては、「NPO やボランティアなど、市民活動や関連団体のパートナーシップ機能への積極的参加を促す」という基本計画の理念が実現されていない。目標達成度 = 20%

E 水質の浄化

<p>環境目標</p> <p>(長期目標)</p> <p>市内のため池の水質は、COD値 8 mg/l (注1)以下をめざします。</p> <p>市内河川の水質は、BOD値 5 mg/l (注2)以下をめざします。</p> <p>(注1)生活上不快を感じない限度の環境基準値(湖沼C類型)</p> <p>(注2)コイ・フナが生息するに適する環境基準値(C類型)また、市内河川の水質目標値については生活排水対策推進計画による。</p>
--

現 状

市内ため池の水質(COD値にみる経年推移)

	13年		14年		15年		16年		17年	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
若王子池	7.9	10.0	10.0	9.2	10.0	5.8	14.0	15.0	8.1	20.0
勅使池	23.0	14.0	370.0	13.0	32.0	9.9	19.0	18.0	10.0	52.0
濁池	5.2	9.5	7.6	5.1	5.1	5.1	6.2	5.4	5.1	6.2
三崎池	9.4	6.5	13.0	7.4	11.0	7.7	13.0	6.4	10.0	9.8
大蔵池	6.1	8.3	13.0	6.4	9.0	4.4	8.2	12.0	19.0	16.0
大原池	3.2	6.7	3.3	5.1	4.1	4.4	4.8	6.2	5.4	9.6
琵琶ヶ池	14.0	15.0	14.0	27.0	27.0	36.0	40.0	9.1	32.0	49.0
西池	26.0	16.0	24.0	6.0	20.0	8.3	17.0	9.2	40.0	17.0

市内河川の水質(BOD値にみる経年推移)

	13年		14年		15年		16年		17年	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
境川	2.8	6.1	3.2	9.1	2.0	3.4	3.4	2.9	3.2	4.5
若王子川	3.8	5.6	3.0	4.3	1.7	2.7	2.8	2.0	1.5	1.7
井堰川	2.5	1.8	3.6	2.4	2.5	2.8	2.9	9.0	1.1	8.6
正戸川	12.0	4.0	11.0	5.1	5.0	5.5	11.0	2.7	2.7	2.6
黒部川	3.0	3.7	5.9	2.1	2.1	2.1	1.2	2.2	0.5	1.8
皆瀬川	9.2	7.6	5.0	20.0	5.9	5.7	5.2	7.9	5.6	5.5
天王川							9.6	6.9	10.0	5.2

市街化区域の下水道整備事業が平成17年全て完了し、今後調整区域への拡充を図るため検討委員会を設置し、18年度中にとりまとめの予定である生活排水対策推進計画(～H20年度)を作成し、水質汚濁防止策(水切りネット・三角コーナー配布)を実施した。

評価：目標の達成には行政内での関係部署の連携が不可欠であるが、きわめて不十分であった。全般に水質が悪化している。目標値が高すぎたのかもしれないが、目標達成に適した施策が欠如していたことも事実である。目標達成度 = 20%

今後の対策・施策：

目標値を再検討する。
新たな施策を検討する。

F 産業活動の支援

環境目標

(短期目標)

環境ISO認証事業所数 10 をめざします。

現 状

短期目標の検証

ISO14000シリーズ認証取得事業所は、12事業所ある。

ISO9000シリーズ認証取得事業所は、4事業所ある。

(市へ特定施設届出時に確認できた事業所)

小規模事業所の環境対策推進を図るために「事業主の皆さんへ」というパンフレット(事業所の一般廃棄物処理方法)作成し、商工会・各発展会に依頼して配布した。

ISO取得に対し、補助している市町があるが、豊明市にはない。

評価：目標を掲げながら、行政としては、財政事情の制約もあり、十分な施策が実行されていない。目標設定に問題があるが、目標達成度 = 20%

G 農地の保全・農業の支援

環境目標

(短期目標)

525haの農地の確保をめざします。(注1)

(長期目標)

農地を確保するとともに、増加傾向へ転じるような田を復旧させる工夫を行います。(注2)

(注1)平成7年の農地面積619ha(市域面積の27%)。平成17年の土地利用の見込みは、農地525ha(豊明市第3次総合計画による)

(注2)耕作放棄地の復元等

現 状

短期目標の検証

農地576haある。(参照:A自然の保全)

長期目標の検証

地産地消をめざし、JAに産直センターを設置した。(現在2箇所)

農業の後継者づくりのために、後継者の育成制度を創設した。

転作を奨励した。

(例)黒大豆を生産し、市内の和菓子店で羊羹にして特産品として販売。

市民菜園として6ヶ所開設した。

(沓掛町-2、新田町-1、新栄町-2、阿野町-1)

生ごみ堆肥を利用した農業の推進を行った。

評価：短期目標に掲げられた農地面積は確保されているが、年々減少してきている。農業者の高齢化や経済性など、行政として対応困難な問題が背景にあるが、地産地消を目指した行政の取り組みに関して、結果をデータとして示すことができないなど、課題認識が十分でないことも事実である。実行された施策は独自性に欠ける。目標達成度=20%

今後の対策・施策：

新たな農業従事者を獲得するための施策を検討する。

H 水とまちづくり

環境目標

(長期目標)

緑地等の雨水浸透面積の確保をめざします。

現 状

安全な水道水の安定供給をはかるために、企業団との連携強化を総合計画に策定した。水道水源地との友好都市の提携を図った。

善意の井戸水制度を創設し、毎年登録者を募っている。(119ヶ所 H17年度)

小中学校の水道口に節水コマをつけ、節水に心がけている。

民間の開発行為において、駐車場内に透水性舗装等の設置を推進している。

市においても都市計画道路や区画整理区域内の歩道に透水性舗装、インターロッキングを実施している。

市街化区域の下水道整備が平成17年度全て完了し、今後、調整区域への拡充を図るため検討委員会を設置し、18年度中にとりまとめ完了予定である。

評価：下水道の整備が高い達成度を示しているが、これは基本計画とは無関係である。水源地との友好は、行政主導の活動ではない。節水，雨水利用の面で行政として取り組んでいることは評価できるが、緒についた段階である。目標達成度 = 40%

今後の対策・施策：市民の意識を高める広報活動を強化する。

I 災害に強い都市づくり

環境目標

(長期目標)

市民の生命、身体及び財産を災害から保護することをめざします。

現 状

水害に強い都市づくり

総合治水対策施設としての整備計画を立案して、2割が完成している。

たん水防除事業等による排水機場の整備(大脇・阿野・大久伝)を行った。

公園の一部である三崎池、大蔵池を利用した洪水調整機能を持たせるため改修工事を実施した。

ため池に治水能力を持たせるために改修工事(二ツ池、大狭間池ほか)を行った。

地震に強い都市づくり

国土地理院発行の活断層(猿投境川断層)の地図を利用して危険性の周知を行っている。

防災対策の推進を図った。

(例)各区・町内会での自主防災組織の成立を推進した。

防災マップを作成し、全戸配布を行った。

火災に強い都市づくり

地域防災計画による燃えにくい市街地の整備を行った。

評価：評価できる対策も実施されているが、市民に提供している情報がわかりにくいところがある。目標達成度 = 50%

今後の対策・施策：

市民に提供する情報の正確度を高め、わかりやすいものにする。

J 潤いと安らぎのあるまちづくり

環境目標

(長期目標)

市民・ボランティア・事業者・行政の協力体制を確立し、潤いと安らぎのあるまちづくりをめざします。

現 状

歩いて走って楽しめるまち

街路樹の剪定を定期的(年2回)に実施している。

池の(三崎水辺公園等)まわりに歩道等による散策路の設置を推進した。

ウォーキングマップを作成し配布した。

潤いと安らぎのあるまち

公園整備計画があり、現在の整備率は40%である。

(整備状況)市民1人あたり8.6㎡(H22) 4.42㎡(H17)

二村山緑地、市民緑地(仙人塚・西大根・桶狭間)を確保した。

地域緑化の推進のために、緑化木配布、新築家庭記念樹配布、各セミナー、花の種配布を行っている。

区で花いっぱい運動に取り組んでいただいた。

みんなで作るきれいなまち

530運動の実施・環境美化に寄与した者の表彰制度導入(H17)した。

アダプトプログラム制度の整備。それにともない、保険への加入により美化活動者支援。

評価：比較的順調に施策が実行されている。目標達成度 = 50%

K より良い道路環境づくり

環境目標

(長期目標)

道路における各種公害に関しては、法令等で定められた環境基準・規制基準値内を維持します。

現 状

観測所による常時測定(阿野・大脇地区)を始め、国道23号線及び伊勢湾岸道路の大気汚染状況を測定している。

県環境調査センターによる測定(23号線・国道1号線)を行った。

JH・国交省等による協定書の締結を行った。

歩道整備、交差点段差解消を行った。

都市計画道路整備(三ツ池高架橋)に伴う植栽の推進を行った。

ひまわりバス運行開始し、H16年度より毎日運行実施に改めた。

評価：ひまわりバスがスクールバスとして利用できるようになったことは評価できる。その他は、高い達成度を示す施策もあるが、取り組みが始まったばかりのものもある。

目標達成度 = 50%

L 環境汚染のないまちづくり

環境目標

(短期目標)

環境汚染の監視及び指導體制を確立します。

(長期目標)

道路、工場・事業所、事業活動、廃棄物処理等、市内の施設・活動による環境影響や環境汚染の監視を行っていきます。

各種規制対象物質においては、規制基準値内を維持していきます。

現 状

短期目標の検証

環境監視員制度を導入し、指導監視している。

H13(16件)・H14(22件)・H15(19件)・H16(19件)・H17(18件)と公害処理した。

工場への県との合同立入り調査・指導を実施した。

県民の生活環境の保全等に関する条例(15.10.1)により規制強化が図られた。

長期目標の検証

水質調査(7河川・8ため池・8排水路)を年2回(春・秋)実施し、データの蓄積を図っている。

ダイオキシン類の調査を市役所屋上にて実施(年4回)している。

新左山工業団地内の事業所との公害防止協定書を締結した。

生活上の苦情解決に努めた。(犬猫の飼い方・屋外焼却行為・ポイ捨て等)

アスベスト対策連絡会をたちあげた。

評価：おおむね順調に実行されてきている。目標達成度 = 40%

M 快適で安全な都市づくり

環境目標

(長期目標)

環境調和・配慮型事業所数1000をめざします。

快適で安全な都市基盤整備の達成をめざします。

現 状

環境配慮協定の締結を図るために、アダプトプログラムを創設し、事業所の協力を依頼している。

花き市場の誘致と切り花市場の拡充を図った。

プレミアム商品券、発展会への商店活性化補助金制度を創設した。

区画整理事業(前後・中島南地区)を施工し、整備済面積355.2ha(市街地の50.9%)

市民参加によるまちづくりを図るために次のことを行った。

パブリックコメント要綱を制定した。

ユニバーサルデザインに関することを事務分掌に規定した。

第4総計策定における市民参加の機会充実を図った。

評価：おおむね順調に実行されてきているが、行政単独では達成できない目標や、始まったばかりの取り組みもあり、いっそうの努力を期待する。目標達成度=50%

N ごみから超ごみへの転換

環境目標

(短期目標)

一人一日あたりのごみ排出量 280 g 以下をめざします。

事業系ごみ排出量を 2000 年比で 40 % 削減をめざします。

(長期目標)

市民・事業者・行政の協力・連絡体制を確立するとともに、その取組を豊かなまちづくりに活かしていきます。

市内全ての廃棄物の処理や投棄について、環境影響や環境汚染を監視していきます。ごみゼロ社会をめざします。

現 状

短期目標の検証

ここでいうごみは、東部知多クリーンセンターへ搬入されたごみである。

一人一日あたりのごみ排出量一覧表

年 度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
排出量 (g)	630.0	554.0	508.0	521.0	515.6	516.5

事業系ごみ排出量

年 度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
排出量 (t)	5,881	5,332	4,976	5,384	5,553	5,570

長期目標の検証

530 運動 (春・秋) を実施している。

ごみ分別のパンフの改良・出前講座を実施し、ごみ意識の向上と分別の徹底を図った。条例施行によりポイ捨て禁止を呼びかけている。

平成 17 年度「犬のマナーリーダー」制度を創設し、犬のふん害防止に役立てている。

平成 17 年度アダプトプログラムにより清掃活動を推進している。

市民に無料配布 (市役所・JA) している。

堆肥センターを建設し、生ごみ堆肥化事業を本格稼働した。

商工会に事業所用 (ごみ減量) パンフレットの配布を依頼した。

評価：短期目標は、個人のごみも事業系のごみも達成されていないが、事業系ごみの排出

量が増加している。行政としてできることには限界もあるが、施策としては不十分であったといわざるを得ない。目標達成度 = 20%

今後の対策・施策：

啓発活動を強化する。

商工会との連携を強化し、回収業者も加えて、対策を検討する。

事業所における分別促進に向けてインセンティブを検討する。

○ 食の安全

環境目標

(短期目標)

有機農産物、食品添加物、遺伝子組み換え食品等に関する情報を提供します。

(長期目標)

地元での食料自給によって食の安全をめざします。

現 状

短期目標の検証

豊明まつり「みんなの生活展」にて啓蒙活動を行っている。

「食品品質表示の早わかり」等のパンフレットを配布した。

消費生活講座を開設した。

農薬の使用について法律の改正もあり、生産者の指導・講習会の開催（JA）を図った。

生ごみ堆肥舎を建設し、堆肥の利用拡充を図った。

農村環境改善センターにて、豊明産大豆を使用した「味噌作り講座」を開催した。

長期目標の検証

学校給食にて地産地消を行っている。

地産地消をめざし、産直友の会に補助金を交付している。

評価：学校給食における地産・地消推進の取り組みは行政挙げての取り組みになっているとは言い難い。産直友の会への補助金は、実効性が不明。目標達成度 = 30%

P 地球規模で考えるこのまちの取り組み

環境目標

(短期目標)

豊明市における二酸化炭素の排出量を 1990 年レベルより 6 %削減をめざします。

現 状

短期目標の検証

地球温暖化防止率先計画として、とよあけエコアクションプランを 13 年度より開始し、二酸化炭素の排出量の削減に取り組んでいるが、排出量の推移は豊明市ホームページに発表したとおりである。

グリーン購入の推進のために小中学校卒業時に祝品として再生品を購入し、グリーン購入を P R した。

アイドリング・ストップに関し、県民の生活環境の保全等に関する条例が制定され、遵守することになった。

住宅用太陽光発電システム補助金制度を実施（H 1 3 ~ 1 7 年度）した。

ハイブリッド車・天然ガス車・電動バイクを導入した

大宮児童館にソーラシステム・風力エネルギー装置を導入した。

市役所東館増築工事に伴い、太陽光発電システム（3 0 k W）を導入した。

評価：さまざまな施策が実行されているが、形式化している。特に公共施設からのCO² 排出量が増加している点は問題である。財政上の制約はあるが、重点化し、組織的に取り組む必要がある。目標達成度 = 30%

Q 環境教育

環境目標

(長期目標)

市は全ての市民が環境を学び、良く知ることができる機会を創出します。

現 状

保育園・小中学校での取り組み

保育園の余剰地及び周辺のあき地を借り受け、いもの栽培や花を植えている。生ごみ堆肥を利用。

保育園では、給食やおやつに出たごみを燃えるごみとプラに分けごみ箱に入れることを体験させている。

小学校4年生の東部知多クリーンセンター見学会を実施している。

環境学習(井堰川の生物調査など)を実施している。(沓掛小)

出前講座を実施・学校の環境学習への協力を行っている。

小中学校社会科副読本「とよあけ」を編集し活用している。

生涯学習での取り組み

豊根野外教育センターでキャンプ活動を行っている。

生涯学習情報誌「チャレンジ」に環境学習講座を掲載している。

評価：学校における環境教育に関しては、よく実行されている。その他の市民に向けた施策は後退している。目標達成度 = 50%

R 市民参加・市民行動

環境目標

(長期目標)

全ての市民が環境について考えたり、行動することができる機会を持ちます。

現 状

パブリックコメント要綱を制定した。

井ノ花公園を始めとした街区公園の改修に市民の声を反映した。

勅使池の自然保護と施設整備を考える会で検討実施した。

三崎水辺公園改修にあたりワークショップを実施し、19年度完成予定である。

環境フェアを市と特定非営利活動法人環境研究所豊明と共に開催した。

評価；唯一の市民参加による単独行事であった「環境フェア」が、平成17年度にて終了したことは大変残念なことであり、評価することが困難である。

今後の対策・施策：市民参加によるまちづくりの推進を心がけるようにしていただきたい。

S 環境施策の推進（市民・事業者・行政のパートナーシップ）

環境目標

（短期目標）

環境基本計画の推進や環境施策の実行等をチェックする、市民と事業者と行政とのパートナーシップ組織をつくります。

現 状

アダプトプログラム実施により美化活動者支援し、広報によるアダプトプログラムの普及・啓発活動を行っている。

環境保全等の活動を行っている市民団体に対し、交流・意見交換・情報共有を行うことができる場を提供（市民活動室）し、情報の発信の場の提供（市民活動情報誌「コラボレーション」年2回発行）を図った。さらに、市民活動情報サイトを整備し、充実を図っている。

区交付金を通じて、地域美化活動を補助。転入・転居者へチラシ配布を行い、区・町内会加入を促進することにより、地域美化向上推進した。学生・単身赴任者・外国人の未加入問題を解決する必要がある。

評価：何をもちて市民・事業者・行政のパートナーシップというのか。基本理念がしっかりとされていないため、評価できない。

今後の対策・施策：環境施策の推進を図るために、市民・事業者・行政のパートナーシップ組織づくりを推進していただきたい。